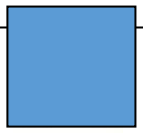
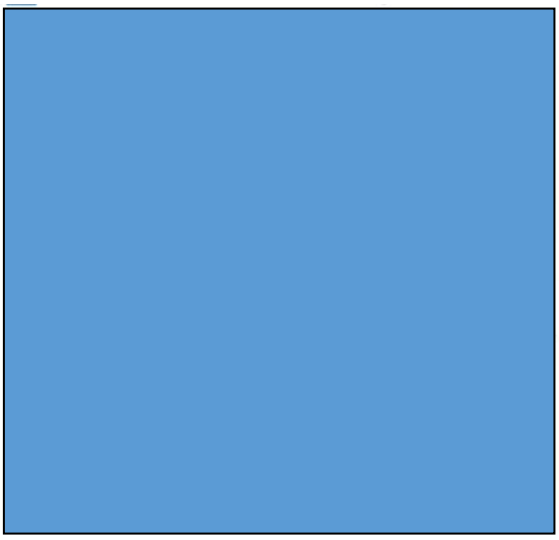
６　本時の目標

包含除の答えを見つける活動を通して、「１つ分の大きさ」で分けていけばよいことを理解するとともに、等分除と同じ除法になることを理解することができる。

７　本時の展開（　３／８　）

学習過程	主な学習活動	見届けの視点と指導・援助
つかむ	1　問題を把握して、見通しをもつ。 ㋐ いちごが１２こあります。 １人に３こずつ分けると、 何人に分けられるでしょう。  ・前は、「一人分」がわからなかった。今日は、「何人」かがわからない。 ・おはじき、図、かけ算などでできそう。 ・前は１こずつ分けたけど、今日は３こずつ分ける。 ㋑ 「何人」がわからないときの分け方を考え、答えを求めよう。	◆実態を見届ける◆ ・既習内容（かけ算や等分除の場面）の理解度を把握する。（レディネステストや前時までの学習の様子） ・第１時と本時との問題場面の違いに着目し、解けそうだと見通しがもてているか。（児童の様子） ・等分除の場面との違いを、比較できないときには、既習内容の掲示を使ったり、動作で示したりして等分除の場面を想起できるようにする。
考える	2　個人追究 ・自分の考えを式や図で表す。 ・おはじきを操作して考える。 3　全体交流で、自分の考えと仲間の考えを比べる。  ・どの分け方も、３つ（１人分）のまとまりで分けている。 ・どの分け方も、「全部の数」「１人分の数」「人数」がある。	◆学習状況を見届ける◆ ・「１人分」のまとまりで分けているか。（おはじき操作やノート） ・何から考えてよいか困っている児童 →おはじきを一緒に操作し、分け方を確かめる。 ・等分除との違いを理解できていない児童 →「第１時と同じ配り方か」をもう一度考えさせる。問題文で大切な「１人に３つずつ配る」ことができているかを問う。
深める	4　わり算の式で表すことができることを知る。 ・１２÷３＝４ 5　まとめ ㋒ （「何人」がわからないときは、） 「１人分」のまとまりで分ける。 このときも、わり算をする。 6　評価問題に取り組む ・どのように分けるのかを考えながら立式し、答えを求める。	◆定着状況を見届ける◆ ・「１人分」のまとまりで分けているかを確認する。 ・正しく立式し、答えを出すことができているか確認する。（評価問題のノート） 【評価規準】 等分したときの「いくつ分」を求めるときは、「１つ分の大きさ」で分けていけばよいことを理解し、除法で表すことができることを知る。（知識・理解）【評価問題】
まとめる	7　ふりかえり（自己評価・よかった姿）	・本時の学習姿勢や態度、学習内容を振り返り自己評価をする場を設け、よかった姿を価値づける。